

＝ 日本共産党杉並区議会議員

週刊

# こんにちは 山田耕平 です

2017.4.13 No.268

このニュースへのご感想  
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺 2-2-1 1

TEL 090-9973-0941

ホームページ

<http://yamadakohei.jp>

昨年に引き続き今年も実施 日本共産党杉並後援会旅行

## 被災地・福島を巡るバスツアー 大盛況!



党杉並区議団と原田都議予定候補、後援会旅行参加者で記念撮影

### 被災地・福島の支援と 都議選必勝を期して

4月9・10日、日本共産党杉並後援会のバス旅行が行なわれました。大型バス3台、百数十名が参加しました。杉並区全体の後援会旅行は昨年18年振りに復活し、大好評でした。今年も多くの要望を受け、被災地・福島の支援と都議選必勝を期して企画されました。

9日は、佐野厄除け大師、那須高原レストラン、日本最古「南湖公園」を巡り、夜は日本共産党福島県議会議員・神山悦子県議団長から福島県の実情等の県政報告を受け、都議選勝利に向けた決起集会と宴会を行いました。

翌10日は甚大な津波被害を受けた福島県いわき市小名浜周辺や塩屋崎灯台の現地見学と当時の被災状況の聞き取りを行いました。最後は観光支援を兼ねたお土産等、盛り沢山の旅行となりました。

今回の後援会バス旅行も党区議団と共に旅行実行委員の方々が企画・運営してくれました。

強く大きく楽しい後援会活動を目指して

都議選勝利に向けた決起集会と宴会では、昨年好評だった日本共産党杉並演劇団（党区議団・青年有志・吉田都議）が寸劇「百条委員会」を公演。昨年に引き続き、大爆笑&大盛り上がりでした。

今回の旅行でも議員地域を超えた親睦が深まりました。多くの参加者から「被災地の現状を知ることができて良かった」「また企画してほしい」という感想が寄せられています。誰もが参加することが出来る、強く大きく楽しい共産党後援会活動を目指して、今後魅力的な企画に取り組みます。

吉田信夫都議会議員も参加（右下）。原田あきら都議予定候補が得意とするギターで全員合唱も（左下）。



企画にご協力頂いたみなさん  
ありがとうございました!



震災から6年が経過するも復興の遅れは深刻

# 旅行から見た被災地・福島の実況

## 原発被害による復興の困難さ

旅行2日目には、塩屋崎灯台の現地見学と当時の被災状況の聞き取りを行いました。甚大な津波被害を受けた「塩屋崎灯台」周辺地区は被害状況が極めて酷く、壊滅的な被害となったと説明を受けました。



塩屋崎灯台付近では、沿岸線のかさ上げと護岸工事が行なわれていた（上）  
党福島県議団の県政報告（左）では、自主避難者への住宅提供の継続や「人間の復興」を基本とする県政運営を求める活動が紹介された。



3月末で打ち切られま  
した。今村復興大臣は「避難先からの帰還を」どうするかは本人の責任」  
「裁判でも何でもやればいい」などと  
発言。国の責任を放棄する姿勢に対  
し、現地では大きな怒りの声が広がっ  
ています。  
3月17日前橋地裁判決では、原発事  
故について、国と東電の責任を初めて  
認めました。  
原発事故によって避難を余儀なく  
されている避難者の苦しみに心を寄  
せず、自らの責任を放棄する国の姿勢  
は許されないことです。

**県民に寄り添う県政こそ**

神山悦子 県議団長  
自主避難者の生活の継続や「人間の復興」を基本とする県政運営を求める活動が紹介された。

【2017年3月現在の帰宅状況】  
避難者 2929人 (53.4%)、川内村 1890人 (65.3%)、飯室町 818人 (11.1%)、田村市避難地区 221人 (3.8%)、富岡町 116人 (8.8%)、南相馬市小高地区 1618人 (16.1%)

さらに、被災直後から、数日が経過しても支援の手が遅れ続けたこと、その原因に原発事故の発生と情報提供の遅れが重なったこと、津波や原発事故被害により地域を離れる人が相次いでいること等が語られました。  
津波被害と共に原発事故被害は依然として深刻です。

## 今村復興大臣の発言に大きな怒りが広がる

原発事故に伴う自主避難者への住宅無償提供が3月末で打ち切られま  
した。今村復興大臣は「避難先からの帰還を」どうするかは本人の責任」  
「裁判でも何でもやればいい」などと  
発言。国の責任を放棄する姿勢に対  
し、現地では大きな怒りの声が広がっ  
ています。

## 市街地の放射線量は低減 一方、山間部では高い線量も…

福島県内の高速道路上では、除染された土壌等を輸送する車両が何台も通過していました。市街地では除染の影響もあり、放射線量は大幅に低減しています。  
一方、山間部など除染が入らない場所では、依然として高い放射線量が測定されるところもありました。原発事故の深刻さを浮き彫りにしています。



復興に向け、県内各地で除染が進められている（右）。  
山間部では毎時0.45μSvを計測した（左）。

## 今週の一コマ

全国で奮闘する党地方議員団  
後援会旅行に駆け付けてくれた党福島県議会議員・神山悦子県議団長の報告には、深い感銘を受けました。原発事故被害からの復興という経験したことのない困難さを抱えながら、県民生活や苦しみに心を寄せ、猛奮闘する県議の姿は日本共産党地方議員の“あるべき姿”を体現していると感じました。私自身の議員活動の責任を再確認する機会となりました。これからも全力で頑張ります。



神山悦子県議団長（右）と原田都議予定候補、吉田都議団長。